

言語活動の効果的な支援はどうあればよいか ～表現力を高める活動を通して～

発表者 栗林 裕之（大分県 国東市立安岐中学校）
指導助言者 坂元真理子（鹿児島工業高等専門学校准教授）
司会者 徳丸 宏信（大分県 国東市立武蔵中学校）

1 はじめに

（1）文言の意味の整理

○「表現」とは ○自己表現 ○4技能の「総合的な指導」と「統合的に活用」

（2）大分県ならびに当地区の現状と課題

○大分県グローバル人材育成推進プラン、大分県英語教育改善推進プラン

○「新大分スタンダード」と「生徒指導の3つの機能を生かした授業づくり」

○当地区の現状 ⇒ “チームくにさき”での組織的な授業改善

○知識・理解にとどまらず、活用へ

○「話す力」「書く力」の定着が不十分、技能統合型の言語活動・指導が不十分、
基本的学習習慣の定着が不十分、「共に学び合う集団」づくりが必要

⇒ 学習意欲、協働する力、表現力の向上

2 取組内容

（1）くにさき地区（国東市・姫島村）中学校外国語教育研究部会の研究方針

（2）基礎・基本の定着に関するアンケート～部会員相互の問題意識の共有～

（3）授業モデルの作成

（4）「自己表現トレーニング」、メッセージづくりに使える表現用例集、「英語力アップ のための効果的トレーニング法」の作成・活用

（5）外国語指導助手の協力（英会話、意見文）

（6）本年度改訂の教科書の構成に基づいた研究チームの編成・教材研究

チーム	研究テーマ	評価資料の例
GET	基礎的・基本的な知識・技能を習得するため の学習活動の工夫・効果的な支援	ワークシート 小テスト 定期テスト
USE	スマールステップで、「話す力」「書く力」を 育てるための学習活動の工夫・効果的な支援	ワークシート パフォーマンステスト
Project	学んだことの集大成としての表現活動や複 数の技能を統合的に駆使して課題解決に取 り組む学習活動の工夫・効果的な支援	ワークシート ポートフォリオ

3 成果

(1) 主体的・協働的に学ぶ英語授業の在り方

- 地域の魅力を題材にした教材開発（発信力を育成し、内発的動機付けを促す）
- “生徒が使える” CAN-DO リストの作成
 - （生徒自身が自己評価し、学習を振り返ることができるようになるための、学ぶスキルの「見える化」）
- 「思考・発信型」の言語活動の充実（目的意識、相手意識）
 - ・「基礎から積み上げる学び」から「基礎に降りていく学び」への転換
 - ・「文法から意味内容へ」から「意味内容から文法へ」への指導の転換
 - ・「教室内で学ぶ英語」から「教室外で使える・通じる英語」への転換

(2) 授業実践例

- Writing と Speaking と Listening の統合的活用
 - ・「自分のことを紹介しよう」
 - ・「外国人の観光客に、姫島に伝統的に伝わるものを紹介しよう」
 - ・「4択クイズ “ダウトを探せ！”」（うそつき英作文）
- Speaking と Writing と Reading の統合的活用
 - ・「Mr Kuri が行ったことのない都道府県は？」

(3) ワークシートの工夫・改善

- 必須項目…本時のめあて (CAN-DO), target sentence, 表現活動, 振り返り
- ユニバーサルデザインの視点を取り入れて
 - …学級のすべての子どもにとってわかりやすく、small step を踏んで
- ワークシートは使う意味を吟味する、ワークシートで気をつけること

4 今後の課題

- ミクロとマクロの英作文
 - ・語彙指導、語順指導等、1つの文を正確に書く力（ミクロの英作文）
 - ・つながりのある複数の文で自分の考えを書く力（マクロの英作文）
- 定着を図るために
 - ①繰り返し触れる
 - ②文単位以上で暗唱させる
 - ③既習の言語材料から自分で選び、内容を考えて使用させる
- 英語教師もバランス感覚が大事
 - 長期 ⇔ 短期 コミュニケーション活動 ⇔ 文法 Input ⇔ Output Fluency (流暢さ)・量 ⇔ Accuracy (正確さ)・質 全体 ⇔ 個・ペア
 - 言語材料を限定した活動 ⇔ 言語材料を自由に使う活動
- 教師の2つの役割の再考 → 双方が依存しあう関係
 - ・教師が主導して授業を運営する役割と、脇役に回り授業の支援を行う役割
 - ・授業を行うときに自分がどのような役割で生徒に向かっているか
 - ・その授業の目的にあった役割を果たしているか